

令和5年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート(最終報告)

学校目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
自分のよさを切り拓く子ども ①進んで勉強しよう ②思いやりのある人になろう ③丈夫な心と体をつくろう ④ふるさと(浦里)に学ぼう	自ら気づき 自ら問いかけ(考え) 自らやってみる 子どもに
	今年度の重点目標
	① 子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～
	② 自他のよさを認め合う場面の位置づけ
	③ 運動・遊びの日常化
④ 子どもの気づきや願いを基にした探究的な学び	

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・昨年度から継続し、子ども主体の学びとなるように、目指す子どもの姿を「自ら気づき 自ら問いかけ 自らやってみる 子どもに」とした。昨年度に設定して継続している「子どもと関わる時間」に、教職員が子どもの姿を知ろうと努め、子どもの気づきや問いをいかした授業となるように心がけた。生活科や総合的な学習の時間を中心に子どもの探究的な学びを保障したことで、問いを解決しようとして協力して取り組む主体的な姿が見られるようになっていく。協働的な学習過程で、自他の良さや知らなかった一面に気づくことが、本校の学校目標「自分のよさを切り拓く子ども」の達成につながっていると考える。 ・150周年記念事業として記念植樹、航空写真撮影、記念運動会、記念音楽会、記念講演会、記念誌の発行を行った。そのような機会に保護者や地域の方に本校が目指す学びの姿をお伝えできたことは成果としてあげられる。					
一人一人の子どもについて知り、授業づくりや支援につなげていこうという意識がもてた。		○			一人一人の学び方の特徴に応じた支援・教材についてさらに検討していく。
毎月取っている「自分を見つめるアンケート」の中で自分のよさを自覚できていない子どもがおり、心配である。職員会議でも扱い、頼りにされる場面等を設けることを続けていく。		○			学校の教育活動のすべてで人権教育を行うことを常に意識し、一人一人の違いや良さを認め合っていく学習や活動を継続していく。
コロナが5類になったため、昨年度より異年齢や教職員と一緒に遊んだり体を動かす「縦割り活動」ができていく。		○			引き続き体育係、児童会に働きかけていく。
子どもたちの気づきや願い、興味関心から学びがスタートできるように意識する教員が増えてきている。子どもたちも達成感を感じる場面が見られる。		○			教職員の意識をさらに高められるように、「子どもと関わる時間」等をきっかけに子どもたちの願いや気づきについて話題にしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
重点目標	①	子どもの実態把握	子どもと関わる時間、授業の評価、各種アセスメント等をもとに、一人一人の興味関心、願い、支援の方向などについて、把握したか。
		三観点を意識した授業	「子どもの言葉で疑問形の学習問題」「振り返りの位置づけ」などを行い、一時間の流れがわかる板書をしているか。
		個別最適な学び	一人一人の学び方の個性を生かしたり、合理的な配慮に基づいたりした学習を保障しているか。
	②	異年齢の友だちとの活動	縦割り班、連学年授業、連学年担任制、こまゆみ教室、保育園との交流などを通して、相手を思いやる意識を高める場面が設定できたか。
		コミュニケーション能力の育成	ICT授業や連学年授業を充実させ、友だちと関わり、学び合う場面が位置付いた授業が行われていたか
	③	体力づくり・遊びなどの日常化	マラソン、体みがき、休み時間の遊びなどの場面で、子どもたちが自分から体を動かすよさを感じるようにはたらきかけたか。
		健康増進への取り組み	歯科指導、栄養指導など、子どもたちが自身の健康に意識を向けるような学習を行ったか。
	④	ふるさと学習の充実	地域の方と連携し、教科横断的なふるさと学習を実施できたか。
		探究的な総合的な学習の時間に	生活科・総合的な学習の時間を、子どもたちの願いや気づきから組織し、探究的な学びを保障できたか。
	学校運営	地域との連携	コミュニティ・スクール
PTA活動			コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアとの関わりを重点に、学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
研修		授業づくり研修	「(自ら)気づき 問いかけ(考え) やってみる」子どもを目指して、教科研究を行い、一人一人が授業改善を行ったか。
		働き方改革	学校業務を効率化したリチームで取り組んだりして、超過勤務を4月と比べて縮減できたか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
「探究的な学習」の研修会を実施し、子どもの姿から興味・関心・願いを把握しようと努めた。「自分を見つめるアンケート」を毎月行った。		○			子どもの願い、興味関心、ものや人へのかかわり方など把握したことを授業づくりにつなげられるよう、連学年会等で話題にしていく。
全職員が意識し、学習問題の提示がされており、アンケートにより職員の意識も向上したことがわかった。		○			「学習問題」「学習課題」「振り返り」のマグネットシートを積極的に使い、研究主任を中心に取り組んでいく。
一人一人の学び方の特性を理解し、学習過程を自分で選択できるようにしたり、児童支援委員会が中心となり校内の人的・環境的資源を生かして支援体制を組んだりした。		○			問題解決の見通しをもつ場面を大切に、自分自身に合ったやり方や表現の仕方を選択できるようにしていく。
連学年授業でお互いに考えを伝えあい、課題を解決する場面を設定したことで、活動に達成感を感じる姿が見られた。縦割り班活動にも全校のほとんどの児童が参加し活動することができた。	○				150周年記念運動会で児童会が主体となって活動出来たので、そのことを継続し学校生活の中で委ねられる場面を増やしていく。
多くの授業で、考えを聞き合う場面を大切にしていた。しかし、コミュニケーションの行き違いやクロムブック使用に関わったトラブルが生まれることがあり、改善に努めた。		○			対人関係スキルやコミュニケーション能力の育成につながるレクリエーション、クロムブックの使い方のルールなどを校内で共有していく。
学年を超えてサッカー・ドッジボール等で体を動かすことを楽しみにしている児童が増えた。朝のマラソンには個人差が見られる。		○			運動に苦手さを感じている児童に対し、体を動かす楽しさを伝えていく。
学校歯科医、栄養士、理学療法士と連携し、歯科指導や栄養指導、体みがきなどを実施した。	○				引き続き、学校生活の様々な場面で、健康増進や疾病予防のために必要なことが選択できるような指導をしていく。
コロナが5類となり、お助け隊の方が学校に入ってくる機会が増えた。子どもたちが地域に触れて学習することができている。		○			年間計画に位置している題材であっても、子どもたちの探究的な学びを大切にできるよう、地域の方にも理解を求めていく。
子どもたちの気づきや問いを、生活科や総合的な学習の時間につなげた授業が展開できている。		○			個人研究で行っている探究的な学びの具体例を紹介し合い、子どもたちがもった問いを探究するための方策を共有する。
参観日や学校運営協議会、150周年記念事業実行委員会での意見を反映し、教育活動を改善している。ウイーン楽友協会の訪問を実現することができ、子どもたちの情操教育に役立てることができた。		○			引き続き学校運営協議会との連携を密にしながら、お助け隊の活動のあり方や学校で求めている探究的な学びのすり合わせを行っていく。
学校保健委員会では、性教育について子どもと保護者が一緒に学ぶことができた。150周年記念音楽会では、PTAコーラスに職員も一緒に取り組み、成功させることができた。		○			メディアコントロールや挨拶を推進するため、子育て委員会が中心となって引き続き働きかけを行っていく。
単元訪問で指導主事を招いての研究授業、各種研修会への参加を通して、子どもが主体的に学ぶ授業のあり方について理解を深めた。		○			お互いに気軽に授業を見合い、教師が教える学校から子どもが学ぶ学校へと意識改革ができるようにしていく。
職員会議のペーパーレス化、出退勤打刻PCの隣にモニター(掲示板)の設置、アンケートのグループフォーム採用等で効率化を図った。昨年度より超過勤務が減っている。		○			業務負担の多い職員がいることも事実なので、その背景を分析し、校務分掌の見直しや、業務内容の精選に引き続き取り組んでいく。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった